

【研究ノート】

## 豪雪地域における学校生徒の除雪ボランティアの 推進に対する考えの多様性

—豪雪地帯指定地域内にある市町村社会福祉協議会から寄せられた自由記述分析をもとに—

Variety of Policies for Promoting Snow Removal Volunteerism by School Students  
in Areas with Heavy Snowfall

—Based on free-text response analysis received from municipal councils of social welfare  
in areas designated as heavy snowfall zones.—

高 橋 和 幸

### I はじめに —仮説設定—

豪雪地帯特別措置法によって 532 市町村が豪雪地域に指定されている。筆者は科研費を得て該当市町村内にある 532 市町村社会福祉協議会（以下、市町村社協）のボランティア支援担当部署に紙上聞き取りを断続的に実施してきた。これまでに除雪ボランティアの活動実態や支援の実績、経年変化、活動の有無に影響をもたらす社会環境要因等について報告してきた。

除雪ボランティアの担い手確保が課題として挙げられ、担い手自体の高齢化も課題になっている。持続可能な活動とするためには新たな担い手の育成も課題であり、国土交通省は先導的取組地域を指定し、助成金を出して支援している。それらの取組主体、担い手確保策はバラエティに富んでおり、モデル地域の取組を普及させようと取組事例集が発行されている<sup>1)</sup>。上記の先行研究成果の中には中学校・高等学校生徒が参加する取組（兵庫県香美町、山形県尾花沢市等）も含まれるが、こうした取組掲載数は少ない現状にある<sup>2)</sup>。学校生徒による除雪ボランティアは雪国に暮らす子どもたちの防災教育効果が期待される面や社会的に弱い立場にある人への支援に直接参加でき、そこから体験的に学び取れる福祉教育的効果が期待される。しかし筆者がこれまでに行った豪雪地域 532 市町村社協を対象とする紙上聞き取りでは、中学校生徒による除雪ボランティア活動が（定期的に行われる、不定期だが行われる、合わせて）「行われている」との回答は平成 28 年度冬期実績調査結果 n=442 で（15.9%）、同平成 30 年度冬期結果 n=400 で（13.5%）、同令和元年度冬期結果 n=400 で（9.8%）に留まった。また高校生徒の場合では、同平成 28 年度冬期結果（6.2%）、同平成 30 年度冬期結果（12.6%）、同令和元年度冬期結果（7.6%）に留まった<sup>3)</sup>。これらより中学校・高等学校生徒による除雪ボランティア活動が行われている市町村社協が少ないことがわかった。

中学校・高等学校生徒による除雪ボランティア活動実践がない市町村社協では①活動の必要性は感じつつも降雪量が少なく活動できない、②降雪量に関係なく課題があって活動できにくい、③もともと降雪量が少ないので活動の必要性が無い、④取り組んでいる社協にも理由があるのではないかと予想した。そこで、各市町村社協が中学校・高等学校生徒による除雪ボランティア活動の推進に対してどのような考えをもっているか掘り下げ質的に分析したいと考えた。

## II 方法

豪雪地域 532 市町村内にある市町村社協を対象とし、令和元年度冬期の管内における除雪ボランティア活動実績、支援実績等を紙上聞き取りにより実施した。調査は 2020（令和 2）年 2 月～3 月にかけて実施し 400 市町村社協（75.2%）から得られた。この調査において当期における「ボランティア指定校等に指定して除雪ボランティアを推進している」の有無を選択回答で尋ねる項目と「貴社協における学校生徒の除雪ボランティアの推進に関する考え」を自由記述して頂く回答欄を設けた。今回は選択回答があることに加え、自由記述の記載があったものだけを分析対象とし、自由記述回答を質的に分析することに力点を置いた。

手順についてである。積雪量を考慮することが求められる一方で、小雪地域にある市町村社協でも多雪地域へ出かけ除雪ボランティアを通じて交流している例も観察された。そのため、小雪地域のデータも除外しないことにした。小雪地域を累計降雪量 100cm 未満、100cm 以上は多雪地域と操作的に定義した。多雪・小雪地域ごとに「ボランティア指定校等に指定して除雪ボランティアを推進している」（以下、ボラ指定校等に指定して推進している）の有無と組み合わせ、以下 4 つの区分「多雪地域・ボラ指定校等に指定して推進している（あり）群、多雪地域・ボラ指定校等に指定して推進していない（無し）群、小雪地域・ボラ指定校等に指定して推進している（あり）群、小雪地域・ボラ指定校等に指定して推進していない（無し）群」に整理し、比較することにした。なお、学校生徒の除雪ボランティアの推進に関する考えは多岐に渡って自由記述されていた。複数回答を分ける他、長文の 1 文中に意味内容が異なるものがある場合は分割し、コードとして扱った。出現したコードを、内容によって相違性、共通性を検討しサブカテゴリー化し、更に分類されたサブカテゴリーとコードに戻り確認しながら、意味が類似したものをまとめてカテゴリー化していった。そのうえで上記 4 つの区分（群間）でどのようなカテゴリー【】が生成され、その内に含まれるサブカテゴリー〈〉、コード（）数の多さ等にも注目し比較・検討することにした。

倫理的配慮として、回答市町村社協名が特定されないよう統計的に処理することを協力依頼文書と調査票に記載して説明し、同意があり回答が得られたものだけを使用した。なお、実施している地域名や学校名・団体名等が記載されている箇所があった場合は削除し、市町村社協名が特定できないようにした。

## III 結果

### III-1. 自由記述の有り件数とコード数

「ボランティア指定校等に指定して除雪ボランティアを推進している」の有無について選択回答し、かつ「学校生徒の除雪ボランティアの推進に関する考え」への自由記述欄にも回答があったのは 253 件（253 市町村社協）に絞られ、分析対象とした。ただし、複文を分けたこともあり得られたコード総数は 343 となった。その内訳は、多雪地域・ボラ指定校等に指定して推進している（あり）群は 37 件（37 市町村社協）でコード数が 58、多雪地域・ボラ指定校等に指定して推進していない（無し）群は 120 件（120 市町村社協）でコード数が 161、小雪地域・ボラ指定校等に指定して推進している（あり）群は 18 件（18 市町村社協）でコード数が 28、小雪地域・ボラ指定校等に指定して推進していない（無し）群は 78 件（78 市町村社協）でコード数が 96 であった。以下、カテゴリーは【】、サブカテゴリーは〈〉、コード（）で表し、コードの代表例を記す形式で紹介する。

### III-2. 自由記述回答分析結果

4 群間比較のうち、まずは多雪地域でボランティア指定校等に指定して除雪ボランティアを推進の有無別に自由記述されたものについて分析した結果を示す。

## Ⅲ-2(1)多雪地域・ボラ指定校等に指定して推進している（あり）群について

多雪地域・ボラ指定校等に指定して推進している（あり）群の自由記述分析結果を示す。

**カテゴリ【継続】**

(表1)

サブカテゴリ〈継続〉	コード数(5)
高齢化率が半分を占める当町ではスノーバスターズの担い手の高齢化が心配される中で、中高生の若い世代に継続して取り組んでいただくことが重要となってくる。	
普段から家での除雪作業もしていないと思われることから、良い経験とボランティアでの達成感を体験できることから今後も継続していきたい。 以下、略	

**カテゴリ【活動している】**

サブカテゴリ〈活動している〉	コード数(17)
毎年中高生のボランティア活動として除雪ボランティア活動を学校と協働して実施しております。	
中学生と地域住民と一緒にスノーバスターズの活動を実施している。	
学生への声かけとして除雪ボランティアだけではなく年間を通して様々なボランティア活動へ(参加の)声掛けをしています、特に町民の方との関わりを大切にする事と除雪の活動につながるために学生のころから身近なものにとらえてもらうために。	
当会が実施している中学生の除雪ボランティア活動は雪処理の経験や知識と技術を若い世代に伝えることにより、雪処理作業中の事故防止を図るとともに、若い世代の担い手養成を目的としています。 以下、略	

**カテゴリ【推進している】**

サブカテゴリ〈推進している〉	コード数(6)
地域の中学生と高齢者の異世代間の交流にもつなげ、福祉教育の機会と捉え、積極的に推進しております。	
除雪ボランティアは地域ニーズや地域の状況に合わせボランティア活動メニューの一つとして推進していきます。 以下、略	

**カテゴリ【支援している】**

サブカテゴリ〈支援している〉	コード数(10)
ボランティアを福祉教育の一つとして考え、毎年共同募金からの助成金を学校へ配分している、また、活動先の選定や日程の調整他、様々な形で社協も関わっている。	
今後超高齢化社会となり若い方の力は大変貴重となると思います、そのため社協としてもサポートを行っているところであります。 以下、略	

**カテゴリ【前向きに考えている】**

サブカテゴリ〈前向きに考える〉	コード数(1)
自分たちの地域は自分たちで守っていくとの意識を持ち、支え合いの地域づくりの一翼を担ってくれるものと考えている。	
サブカテゴリ〈前向きに思う〉	コード数(5)
除雪ボランティア活動を通して、自分の住む地域の理解や相手の立場にたって考える心を育む等福祉教育の一環として大切な取り組みだと思います。 以下、略	

**カテゴリ【～したい】**

サブカテゴリ〈検討したい〉	コード数(3)
面積が広く町内でも積雪量の差が大きいので一律に取り組むことは難しいが、豪雪地域については今後検討していきたい。 以下、略	
サブカテゴリ〈いきたい〉	コード数(3)
地区社協等との連携を更に強化していき、地域共助ネットワークづくりを進めていながら全市全域で除雪ボランティアの体制を構築していきたい。 以下、略	

**カテゴリ【地域に任せている】**

サブカテゴリ〈地域に任せている〉	コード数(2)
管内の小中学校が実施するボランティアの推進について助成金をだしているが、除雪を行うのは各学校のボランティア担当に一任している。 以下、略	

### カテゴリ【制約される、小雪の影響含む】

サブカテゴリ〈安全管理〉	コード数(1)
もっと推進していききたいところですが安全を確保しながらの活動には限界があるため、どうしても活動が制限されます。	
サブカテゴリ〈民業圧迫〉	コード数(1)
当町は高齢者等除雪支援の必要な方へは所得に応じた利用料で除雪作業が確立しているので、学校生徒の活躍の場が得られない状況です。	
サブカテゴリ〈小雪の影響〉	コード数(1)
子ども達より参加してよかったとの声あり、継続していく予定でいたが、今年度雪が少ないため中止となった。	

### カテゴリ【苦労している】

サブカテゴリ〈苦労している〉	コード数(3)
年間行事で期日が決まっており、雪の状況により変更することができないため対象世帯の選定に苦労している。以下、略	

## Ⅲ-2(2)多雪地域・ボラ指定校等に指定して推進していない（無し）群について

多雪地域・ボラ指定校等に指定して推進していない（無し）群の自由記述分析結果を示す。

### カテゴリ【継続】

(表2)

サブカテゴリ〈継続〉	コード数(1)
当市においては、降雪量も少なく学生・生徒による除雪ボランティアは多くはないが、部活動の活動として取り組まれている学校もあり、継続していければと考える。	

### カテゴリ【活動している】

サブカテゴリ〈活動している〉	コード数(12)
中学生自体除雪は不慣れとは思いますが、意思を持ってやっているとします。	
当町における除雪ボランティアは主に高校生であります。	
学校行事として実施している学校へ対象世帯の選定等を行い一緒に活動している。	
学生ボランティアは直接高齢者世帯の除雪ではなく福祉施設に出向き除雪作業を行っていただいている、学生の皆様は自己完結自己責任で作業に使用するスコップ等を各々持参している。以下、略	

### カテゴリ【推進している】

サブカテゴリ〈推進している〉	コード数(1)
ただし、学生や町内のサポーター自らが目的を持って除雪に携わりたいと声を上げた際には即事業化できるような仕組みを整える必要性は感じており、体制整備を進めております。	

### カテゴリ【支援している】

サブカテゴリ〈支援している〉	コード数(7)
市の除雪に対する事業もあるため、特に除雪ボランティアをとりあげるのではなく、ボランティア活動のひとつとして除雪ボランティアをご紹介します。	
本会では学校教育ボランティアとして助成制度を行っています。以下、略	

### カテゴリ【前向きに考える】

サブカテゴリ〈実現に向け考える〉	コード数(10)
中高生への除雪ボランティアの協力を得たいと考えている。	
今後は中学校とも共同できないか検討中である。	
降雪状況により対応を検討する。以下、略	
サブカテゴリ〈育成に向け考える〉	コード数(6)
当町は除雪ボランティアに限らずボランティア団体活動が乏しい地域、社協としては今後ボランティア育成に向けた研究等を進めていく考えはあります。	

除雪ができる若者を育てることは大きな目標、まずは自宅を活動の場にして次に地域での活動を目指すこと。 以下、略
サブカテゴリー〈推進の方向で考える〉 コード数(13)
この町は比較的降雪量・積雪量が多いため、この風土を活用し、除雪ボランティアを通して除雪困難者の実態や除雪の要領を勉強することができると思うので良い活動であると考えます。
福祉教育の推進、地域づくり、人材育成という視点で取り組むべきと考えます。
今後は学校との連携を取りながら、推進していきたいと考えています。
将来的には除雪ボランティアの推進は必要だと考えている。
学校生徒単独のボランティアだけでなく、学校と自治会が協働して実施できるのが望ましい。 以下、略
サブカテゴリー〈役立つと考える〉 コード数(18)
除雪による体験や交流は生徒にとっても、夫婦・一人暮らしの対象世帯の方にとっても、お互いに刺激となるため、大変意味のあるものと考えている。
現在、学校生徒への除雪ボランティアの推進は行っていないが、同じ町内でも積雪の量に差があり、自分が住んでいる地域でも場所によって環境が違うことを知る機会になるし除雪で困っている人がいることを実感し地域での支え合いが必要であると感じるのではないかと考える。
学校生徒が地域貢献を通し地域の方と関わることは地域を知ることができたり達成感にもつながるため良い取り組みだと思います。
除雪が難しい世帯への支援にもなり、住みよい地域づくりを目指していけると思います。
子ども達への助け合いの意識づけや新たな担い手づくりの一環としては良いかと思っています。 以下、略

### カテゴリー【～したい】

サブカテゴリー〈実現したい〉 コード数(4)
どこをやるか等地域と相談して検討しているところと学校単独のところがあるため、地域と協議で活動に取り組めるようにコーディネート等をしてほしい。 以下、略
サブカテゴリー〈普及・図る〉 コード数(2)
地域とのふれあい・つながりを大切に、ボランティア意識の高揚を図りたい。 以下、略
サブカテゴリー〈学校と連携したい〉 コード数(1)
本年は雪不足のため実施には至りませんでしたが、教諭との打ち合わせまたは昨年の生徒さんの感想から達成感、感謝されることからの喜び等、多くの生徒さんから心の変化を感じることから、今後も学校と協力し実施していきたい。
サブカテゴリー〈検討したい〉 コード数(5)
「雪害への備え意識」を醸成する意味でもまずは対象エリアを絞ったうえで試験的に実施していくことを検討したい。
当会で実施している「社会福祉普及校事業補助金」があるので、今後は学校への説明をする中で除雪ボランティアについての紹介や案内もできるように検討していきたい。 以下、略

### カテゴリー【地域に任せている】

サブカテゴリー〈地域に任せている〉 コード数(1)
学校生徒の除雪ボランティアもよいが、先ず自分たちが通っている学校周辺の除雪を自ら行う仕組みを作った方がよい。
サブカテゴリー〈求めに応じて〉 コード数(3)
学校生徒のボランティアについては、学校管理下のため推進は図っておりませんが、学校からの問い合わせがあった際には検討を図ります。
カリキュラムの関係もあるので、学校より依頼があれば対応する。 以下、略

### カテゴリー【制約される、小雪の影響含む】

サブカテゴリー〈事務量・他事業対応〉 コード数(4)
現状の事務局体制では除雪ボランティアの推進まで手がまわらない状況である。
社協の人件費を町に頼っているが、事務局が忙し過ぎてやるべきことができない状況もある。
無償ボランティアより有償ボランティアへの移行に伴い、学校生徒の除雪ボランティアの動きはなくなってしまった。 以下、略
サブカテゴリー〈安全管理〉 コード数(2)

若い担い手の養成や地域の世代間交流として重要と考えており、住民からも同様の意見がある一方で、危険性に対する意見も多く出ている。 以下、略

サブカテゴリー〈移動手段〉 コード数(1)

学校単独だと徒歩での移動になるので、除雪する場所が限定されてしまう。

サブカテゴリー〈学校との連携〉 コード数(7)

学校との連携が難しい。

機会を見て、学校側へはボランティアなどの体験活動の実施検討をお願いしているが、実現できていない。

当町でも担い手不足であり、学校生徒への除雪協力を得られると助かるが、教員の負担軽減を理由に別のボランティア活動が断られた経緯があり難しい。 以下、略

サブカテゴリー〈活動日時の連絡調整〉 コード数(5)

イベント型として行うには良いかと思いますが、日常的に支援を必要とされる方には、学校生徒という枠組みでのボランティアは難しく感じています。

高齢者が困るのは雪が降った直後なので子どもが除雪ボランティアをするのは状況的にみて厳しいのではないかと。

具体的に活動日時や場所が決まっているわけではないので、参加しづらいのだと思います。 以下、略

サブカテゴリー〈少子化〉 コード数(11)

ぜひ活用したいと思いますが、人口が少なく児童数も少ないため継続性や負担の面で問題が生じてしまうように感じます。

少子化とスクールバスで通っている児童・生徒が多いため除雪ボランティアの時間がとれないのが現状です。

災害級の降雪はほぼない地域であり、また1学年20名に満たない中高生の除雪ボランティアは現実的ではない。 以下、略

サブカテゴリー〈小雪の影響〉 コード数(7)

雪が少ない地区なので地域課題としてあがりにくい、高齢者宅は近所づきあいからできている面がある。

積雪量の多い所では学校生徒の除雪ボランティアの推進を必要とするが、除雪する機会が少ない地域である。 以下、略

## カテゴリー【苦勞している】

サブカテゴリー〈理解不足で苦勞〉 コード数(10)

なんであそこには来て、私にはボランティアがこないのと言われるケースもある。

数年に1回ぐらい、中・高校から「一人暮らし高齢者等の雪かきをしたいが…」という問い合わせがあるが、対象者からの承諾や高齢者のプライバシーの問題が出ることもある。

現在は、ボランティアの登録依頼を市内各高等学校へおこなっていますが、未登録であることが現状です。 以下、略

## カテゴリー【推進していない+】

サブカテゴリー〈他事業でカバー〉 コード数(4)

ボランティアに頼らなくても充足しているため、除雪以外のボランティア活動を推進しています。

平成30年度に行政との協働体制を整え、小中学校を対象とした福祉教育にも入れているところですが、「除雪」に焦点をあてた事業は行っておりません。 以下、略

サブカテゴリー〈ニーズ待ち・慎重対応〉 コード数(4)

今のところ町内会及び個人の活動で除雪についてはおおむね支障なく推移していることから学校生徒への働きかけをする必要はない。

除雪ボランティアについては危険を伴います、慎重に対応、状況に応じて検討ではないかと感じます。 以下、略

## カテゴリー【推進していない、考えていない-】

サブカテゴリー〈安全管理面で〉 コード数(2)

除雪作業には必ず危険が伴うため安全に配慮する必要がある、ただ単にお金がかからなければいいというものでもない。

学校生徒に行わせることは考えていない(ケガ等が不安)。

サブカテゴリー〈地域ごとに対応で〉 コード数(1)

現状として行政サービスや民間業者、その他各自治会の取り組みなどがあり、地域により状況がそれぞれ違うことから、除雪ボランティアを推進する方向ではない。

サブカテゴリー〈民業圧迫〉 コード数(1)

個人・法人問わず、除雪を生業とする方が町内に数多くおり、重要な経済活動のひとつとなっている事、また、当会が経費削減の手段としてボランティアを利用することを是としていないことが主な理由です。
サブカテゴリー〈理解不足で〉コード数(4)
中学生を頼れるのか疑心暗鬼で働きかけていないこともある、そもそも福祉教育の必要性は認識しているが具体化していない。
一時期高校生の除雪ボランティアを行っていましたが、そのために町の除雪サービスをストップさせて雪をためておくなどしており、主旨としてどうなのかということになり今は行っていません。以下、略
サブカテゴリー〈小雪で考えていない〉コード数(4)
降雪量も少なく学生数も少ないので、除雪ボランティア推進については考えていない。
降雪量が少ない地域であるため、現在特に予定はありません。以下、略
サブカテゴリー〈必要としていない〉コード数(10)
学校生徒の除雪ボランティアの推進は行っていません、今後もその予定はありません。
今のところ、学校生徒による除雪ボランティアの推進については、社協から働きかける予定はない。
特に学校生徒の除雪ボランティアの推進に関して考えをもちあわせていません。
生徒の除雪ボランティア推進について取り組む予定はございません。以下、略

### Ⅲ-2(3)小雪地域・ボラ指定校等に指定して推進している（あり）群について

小雪地域・ボラ指定校等に指定して推進している（あり）群の自由記分析結果を示す。

#### カテゴリー【継続】

(表3)

サブカテゴリー〈継続〉コード数(2)
今後も福祉教育を学校、教育委員会等と協力して実施していきたい。以下、略

#### カテゴリー【活動している】

サブカテゴリー〈活動している〉コード数(2)
年に1回、地元の青年有志団体と協力し児童・生徒と除雪活動を行っている。以下、略

#### カテゴリー【推進している】

サブカテゴリー〈推進している〉コード数(3)
地域と学校が積極的にかかわりながら、地域に根差した子どもたちの育成を目的とした「福祉教育推進事業」により地域内におけるボランティア全般の活動を推進している。以下、略

#### カテゴリー【支援している】

サブカテゴリー〈支援している〉コード数(4)
町内の学校をボランティア指定校として支援し、補助金を交付しています。
地域の実情に合わせての活動が基本ですが、共通として「今自分ができることは何か」考えてもらううえで、市内小中高の福祉担当の先生方との連絡会を開催し、情報共有を行っています。以下、略

#### カテゴリー【前向きに考える】

サブカテゴリー〈良い〉コード数(2)
世代間の交流もできることから良いと思っている。以下、略
サブカテゴリー〈推進に向け考える〉コード数(6)
積雪の多い地域と学校が離れているが学校側から除雪ボランティアを休みに行いたい旨相談がありました、この点においては断ることなく活動先をコーディネートしたいと考えます。
町の補助金制度を優先してはいますが、今後の状況によっては学校等への働きかけも必要かと考えます。
中高生にとって、雪かきボランティアが地域に目を向けていくためのきっかけになってほしいと考えています。以下、略

### カテゴリー【制約される、小雪の影響含む】

サブカテゴリー〈安全管理〉	コード数(1)
村内の全小中学校をボランティア協力校に指定し各10万円補助金によりボランティア活動の準備を依頼しており、校舎の周辺の除雪は行っているが、地域に出すのは安全面等を考え行っていない、やむをえないかとは考えています。	
サブカテゴリー〈移動手段〉	コード数(1)
本町では積雪の多い地域と学校がある場所では約10km離れています、そのため平日に雪かきボランティアすることは難しい状況です。	
サブカテゴリー〈活動日時の連絡調整〉	コード数(3)
中高生の居住地域周辺で雪かきボランティアの活動をすることで、その後の地域とのつながりも作っていきたいですが、実施は調整が難しい。以下、略	
サブカテゴリー〈小雪・ニーズ不足〉	コード数(3)
地域によって降雪の状況が異なるため、学区地域の課題として必ずしも共通ではありません。	
集中して除雪対応が必要な町内が多く出てくれば、(但し)緊急性のない場合は、中高生の冬場の部活動が雪でできない時を利用し、除雪に力を貸してもらいたいとお願いをした年がありました(平成29年度)。以下、略	

### カテゴリー【苦勞している】

サブカテゴリー〈苦勞している〉	コード数(1)
高齢者の方が、中学生が来てくれたと喜んでお菓子や飲み物を渡すケースも増え、そういった情報が子供たちにも広まり、訪問する所によってはばらつきが出始めたという事もあるとの事で、福祉教育の難しさというものを感じております。	

### Ⅲ-2(4) 小雪地域・ボラ指定校等に指定して推進していない(無し)群について

小雪地域・ボラ指定校等に指定して推進していない(無し)群の自由記述分析結果を示す。

### カテゴリー【活動している】

(表4)

サブカテゴリー〈活動している〉	コード数(7)
本市は年々積雪量が減少していることから、学生がボランティア体験の一環として他地域の豪雪地帯での除雪ボランティア活動を行う企画(平成27年度実施)等で、除雪方法を学んでいる。	
ご近所の見守り活動の中で、除雪をされる取り組み(ケアネット活動)が浸透している、一地区ではあるが地区と中学校が連携して年1回除雪ボランティアの日を催している。	
一人暮らし高齢者や高齢者世帯等を対象に除雪ボランティアを行っており、毎年中高生に依頼しボランティア登録をお願いしております。以下、略	

### カテゴリー【推進している】

サブカテゴリー〈推進している〉	コード数(6)
積雪が多い年には中学生の運動部の部活として除雪ボランティアに協力してもらったこともあり、ボランティア活動と位置付けて進めています。	
地域福祉(活動)計画内に若者に限らず地域における支え合い活動の一環で要援護世帯(独居、高齢など)に対する除雪活動を推進しています。以下、略	

### カテゴリー【支援している】

サブカテゴリー〈支援している〉	コード数(6)
ボランティア登録いただいている学校については毎年除雪ボランティアへの直接の呼びかけも行っています。	
学校生徒に対する除雪ボランティアの推進は現状、ボランティアセンター情報誌にボランティア募集記事を掲載し、各学校へメールで配信しており、今後も同様に周知していく予定。以下、略	



**カテゴリ【前向きに考えている】**

サブカテゴリ（推進に向けて考える） コード数(8)
見守りネットワーク活動の一環として子どもたちが除雪等日常的にかかわることは大変意義があり、啓発は続けたい。
担い手不足の解消だけでなく、地域とのつながりや世代間交流にもなるので進めていきたい。
近年小雪傾向でもあり、除雪の機会が少ない状況ではあるが、子どもたちには主体的に除雪の活動に取り組めるよう平時より地域とのつながりづくりに力を入れた。 以下、略
サブカテゴリ（役に立つ） コード数(9)
当市は雪が少ない地域です、大雪で除雪が必要な状況になれば、学生による除雪ボランティアの取り組みは地域との一体化を図るためにも大切な事だと思います。
活動を通じて得られる子どもたちの達成感や学びは大切なことと考えます。
手作業で行うこと、除雪機械は使用しない、屋根など高い所の除雪作業は行わないで学校が休みの日に行うならば、よいと思う。 以下、略
サブカテゴリ（期待する） コード数(1)
学校生徒へは地域や保護者からの育みを期待している。
サブカテゴリ（検討していく） コード数(3)
学校生徒に向けての福祉教育もそこまで考えていない状況で、現在プログラムを検討中です。
当会は「困りごとサポート事業」の一環として除雪を考えているが、現在サポーター(支援)側に学校生徒はいない、今後考えてみたい。 以下、略
サブカテゴリ（求めに応じて考える） コード数(5)
学校の働き方改革中で、新規協働事業の社協からの提言は難しい現状にあるが、学校から社協に提案があれば協力したい。
今後は中学校区に配置される生活支援コーディネーターと連携し、ニーズを把握したうえで必要があれば中高生の活動につなげたいと思っています。
高齢化等により現在行われている助け合い(除雪)困難になった場合など必要に応じ推進を検討します。 以下、略

**カテゴリ【地域に任せている】**

サブカテゴリ（地域に任せている） コード数(2)
除雪に関しては学校の自主性に任せている。 以下、略

**カテゴリ【制約される、小雪の影響含む】**

サブカテゴリ（移動手段） コード数(2)
学生の移動手段の確保が難しく、課題を解決しなければ学生の参加は難しくなってくる。 以下、略
サブカテゴリ（活動日時の連絡調整） コード数(3)
学校生徒が登下校時、地域の一員として、ちょっとした雪かきがあれば地域内のボランティア活動の循環ができてくると思うが、そこまで行動できていない。 以下、略
サブカテゴリ（担い手不足） コード数(1)
担い手不足、生徒の達成感の充足には共感するが、豪雪地域での単発の除雪では効果が薄く、かといって日常的に一定数の除雪をボランティアで行うことには課題を感じます。
サブカテゴリ（小雪の影響） コード数(10)
近年除雪が必要なほどの積雪がありません。
地域内で降雪量に差があるため、統一した意識や取り組みは難しい。
毎年除雪ボランティアについてはボランティア情報誌やホームページ、SMS（ショートメール）などを活用して広く呼びかけを行っていますが、2019年、2020年と暖冬により積雪なく、学生への直接の依頼は行っていません。 以下、略

## カテゴリ【苦勞している】

サブカテゴリ〈苦勞している〉   コード数(4)
数年前に高校生による除雪ボランティアを実施、活動の様子などをHPで広報した際に、「学生を無償労働させている」(ボランティアの名目の無償労働)とのクレームが地域により入り、対応に苦慮した経緯もある。
呼びかけや支援(助成金等)をすることに異論はないが、学校側の担当が交替することやトップが変わることで取組みに対する姿勢が変わり生徒たちが主体的に取り組むのではなくやらされていると感じて実施するようなことは避けてほしい、あくまでも生徒主体で行って下さい。
生徒の除雪ボランティアについては地域での活動として望ましいですが、現状は学生なので付き添いや見守りといった保護者や先生の確保が難しいです。 以下、略

## カテゴリ【推進していない+】

サブカテゴリ〈福祉教育はあるものの除雪ボランティアは推進していない〉   コード数(3)
除雪ボランティアの推進はしていないものの、日ごろから福祉を身近に感じてもらえるよう福祉教育を行い、福祉の心を育んでいます。
学校生徒へのボランティアの推進はしていますが、除雪に特定しての推進は積雪量からも現在考えておりません。 以下、略

## カテゴリ【推進していない-】

サブカテゴリ〈行政事業でカバー〉   コード数(1)
除雪ボランティア活動体験は重要だと考えるが、当町では要支援世帯へ行政から「除雪の助成事業」があるため、概ねこれでまかなわれている。
サブカテゴリ〈移動手段〉   コード数(1)
当町においては子供の数が少ないことや公共の移動手段がほとんどないこと等、課題が多く現時点で学校生徒に対する除雪ボランティアの推進は考えていません。
サブカテゴリ〈学校との連携不足〉   コード数(1)
市内全域を対象にボランティアを募集しますが、各学校への依頼は現状を踏まえ考えておりません。
サブカテゴリ〈担い手不足〉   コード数(1)
当村では小学校のみが、学生であり、児童にボランティアとして除雪をしてもらう考えは今のところありません。
サブカテゴリ〈推進していない〉   コード数(3)
社協が運営するボランティアセンターでは学校生徒の除雪ボランティアの登録、推進は行っていない。 以下、略
サブカテゴリ〈考えていない〉   コード数(5)
現在のところ考えていない。
学校生徒の除雪ボランティアについて特に考えていない。 以下、略
サブカテゴリ〈予定なし〉   コード数(3)
近年除雪ボランティアが必要な積雪量もなく自治会内で対応しているケースがほとんどなので、特に学生に対する働きかけを行う予定はない。 以下、略
サブカテゴリ〈小雪で推進できない〉   コード数(4)
近年降雪が少なく除雪作業が無いため活動推進できない。
除雪ボランティアが必要になる程の降雪がない地域のため、推進する予定はない。 以下、略
サブカテゴリ〈小雪であるため考えていない〉   コード数(7)
小雪傾向で除雪ボランティアの実施が無いことと本村には小中学校までしかない為、現在は考えていない。
積雪量が少ない地域であり、大人から子供まで除雪のニーズが少ないので除雪ボランティアの推進は現在特に考えていない。
私どもの地域では雪害と言われる程降雪の多い地域ではないので、除雪ボランティアの立ち上げ等は検討しておりません。 以下、略

Ⅲ-2-(5) 4 群間において生成されたカテゴリ【 】、サブカテゴリ〈 〉とコード数一覧表

4 群間において生成されたカテゴリ【 】、サブカテゴリ〈 〉とコード数を一覧表にした。

(表5)

1. 多雪・ボラ指定校等に指定して推進している(あり)群			3. 小雪・ボラ指定校等に指定して推進している(あり)群		
カテゴリー	サブカテゴリー	コード数	カテゴリー	サブカテゴリー	コード数
【継続】	〈継続〉	5	【継続】	〈継続〉	2
【活動している】	〈活動している〉	17	【活動している】	〈活動している〉	2
【推進している】	〈推進している〉	6	【推進している】	〈推進している〉	3
【支援している】	〈支援している〉	10	【支援している】	〈支援している〉	4
【前向きに考えている】	〈前向きに考える〉	1	【前向きに考える】	〈良い〉	2
	〈前向きに思う〉	5		〈推進に向け考える〉	6
【～したい】	〈検討したい〉	3	【制約される、小雪の影響含む】	〈安全管理〉	1
	〈いききたい〉	3		〈移動手段〉	1
【地域に任せている】	〈地域に任せている〉	2		〈活動日時の連絡調整〉	3
【制約される、小雪の影響含む】	〈安全管理〉	1		〈小雪・ニーズ不足〉	3
	〈民業圧迫〉	1	【苦勞している】	〈苦勞している〉	1
	〈小雪の影響〉	1			
【苦勞している】	〈苦勞している〉	3			
2. 多雪・ボラ指定校等に指定して推進していない(無し)群			4. 小雪・ボラ指定校等に指定して推進していない(無し)群		
カテゴリー	サブカテゴリー	コード数	カテゴリー	サブカテゴリー	コード数
【継続】	〈継続〉	1	【活動している】	〈活動している〉	7
【活動している】	〈活動している〉	12	【推進している】	〈推進している〉	6
【推進している】	〈推進している〉	1	【支援している】	〈支援している〉	6
【支援している】	〈支援している〉	7	【前向きに考える】	〈推進に向けて考える〉	8
【前向きに考える】	〈実現に向け考える〉	10		〈役に立つ〉	9
	〈育成に向け考える〉	6		〈期待する〉	1
	〈推進の方向で考える〉	13		〈検討していく〉	3
	〈役立つと考える〉	18		〈求めに応じて考える〉	5
【～したい】	〈実現したい〉	4	【地域に任せている】	〈地域に任せている〉	2
	〈普及・図る〉	2	【制約される、小雪の影響含む】	〈移動手段〉	2
	〈学校と連携したい〉	1		〈活動日時の連絡調整〉	3
	〈検討したい〉	5		〈担い手不足〉	1
【地域に任せている】	〈地域に任せている〉	1		〈小雪の影響〉	10
	〈求めに応じて〉	3	【苦勞している】	〈苦勞している〉	4
【制約される、小雪の影響含む】	〈事務室・他事業対応〉	4	【推進していない+】	〈福祉教育はあるものの除雪ボランティアは推進していない〉	3
	〈安全管理〉	2	【推進していないー】	〈行政事業でカバー〉	1
	〈移動手段〉	1		〈移動手段〉	1
	〈学校との連携〉	7		〈学校との連携不足〉	1
	〈活動日時の連絡調整〉	5		〈担い手不足〉	1
	〈少子化〉	11		〈推進していない〉	3
	〈小雪の影響〉	7		〈考えていない〉	5
【苦勞している】	〈理解不足で苦勞〉	10		〈予定なし〉	3
【推進していない+】	〈他事業でカバー〉	4		〈小雪で推進できない〉	4
	〈ニーズ待ち・慎重対応〉	4		〈小雪であるため考えていない〉	7
【推進していない、考えていないー】	〈安全管理面で〉	2			
	〈地域ごとに対応で〉	1			
	〈民業圧迫〉	1			
	〈理解不足で〉	4			
	〈小雪で考えていない〉	4			
	〈必要としていない〉	10			

#### Ⅳ 分析・評価 —考察に代えて—

調査回答が令和元年度冬期の活動、支援実態に基づいたもので、データが少し古くなったことは否めない。また、豪雪地域 532 市町村内にある市町村社協ボランティア担当に調査を実施し回答票が寄せられたものの中から、さらに自由記述があったものだけに分析対象(253市町村社協)数が絞られた。加えて、降雪量は年によっても変化があり今回の調査結果は過去 30 年間で最も小雪シーズン(豪雪地帯指定地域の累計降雪雨量平均が 210cm)となった令和元年度冬期の(単年度)もので、あくまで豪雪地域の傾向分析に留まる。除雪が必要な降雪量がある地域とそうではない地域を明確に分けたいと考え、累計降雪量が 100cm 未満を小雪、それ以上を多雪と区分したが、これによって小雪地域・ボラ指定等に指定して推進している(あり)群は(18市町村社協)と対象数が少なくなったことも、考慮しなければならない。個人研究ではこれらの限界があることを前置きした上で、今回の調査結果から得られた知見について述べていきたい。

カテゴリー【継続】については、小雪地域・ボラ指定校等に指定して推進していない(無し)群には観察されなかった。該当コード数の多さは多雪地域・ボラ指定校等に指定して推進している(あり)群(コード数 5)、以下( )で略、小雪地域・ボラ指定校等に指定して推進している(あり)群(2)、多雪地域・ボラ指定校等に指定して推進していない(無し)群(1)であった。この結果から、多雪地域・ボラ指定校等に指定して推進しているところでは継続した活動が多い傾向、小雪地域でもボラ指定校等に指定して推進しているところでは数こそ多くはないが継続的活動がみられた。カテゴリー【活動している】については 4 群ともに観察された。該当コード数の多さは多雪地域・ボラ指定校等に指定して推進している(あり)群(17)、多雪地域・ボラ指定校等に指定して推進していない(無し)群(12)、小雪地域・ボラ指定校等に指定して推進していない(無し)群(7)、小雪地域・ボラ指定校等に指定して推進している(あり)群(2)の順となった。この結果から、ボランティア指定校等に指定して力を入れて推進する、しないの影響も考えられるが、同指定の有無の影響より降雪量が多くニーズが高い地域ほど除雪ボランティア活動が実践されやすい傾向が把握できた。降雪量が活動の有無に与える影響は予想した通りであった。なお、継続的な活動や活発な活動ができる要因の特定までは出来なかった。

カテゴリー【推進している】については 4 群ともに観察された。該当コード数の多さは、多雪地域・ボラ指定校等に指定して推進している(あり)群(6)、小雪地域・ボラ指定校等に指定して推進していない(無し)群(6)、小雪地域・ボラ指定校等に指定して推進している(あり)群(3)、多雪地域・ボラ指定校等に指定して推進していない(無し)群(1)の順となった。また、カテゴリー【支援している】については 4 群ともに観察され、該当コード数の多さは多雪地域・ボラ指定校等に指定して推進している(あり)群(10)、多雪地域・ボラ指定校等に指定して推進していない(無し)群(7)、小雪地域・ボラ指定校等に指定して推進していない(無し)群(6)、小雪地域・ボラ指定校等に指定して推進している(あり)群(4)の順であった。上記 2 つの結果より、多雪地域・ボラ指定校等に指定して推進している(あり)群では、やはり活動の推進や活動に対する支援に力を入れていることが確認できた。また、多雪・小雪問わずボラ指定校等に指定して推進していない(無し)群においても積極的に支援しているという認識が無いか薄いものの、自由記述回答の文章中に「業務を通じて実際には推進している様子や支援している内容が自然に含まれてしまう傾向にある」ことも把握できた。カテゴリー【前向きに考える】については 4 群ともに観察された。カテゴリー【～したい】は多雪地域・ボラ指定校等に指定して推進している(あり)群、多雪地域・ボラ指定校等に指定して推進していない(無し)群において観察された。上記 2 つの結果より、積極的な支援や除雪ボランティア活動を肯定的にとらえる姿勢は、降雪量の多い地域ほど強い傾向にあるものと考えられる。なお、小雪地域においても、代表的なコードに示された意見に注目すると「ボランティアの一環として推進していることや、福祉教育の一環として含まれる」といったように、一定の理解が示されていることがわかり、自由記述を詳しく分析したからこそこうした多様性を見出すことができた

言える。

カテゴリー【制約される、小雪の影響】は4群ともに観察された。制約される理由として安全管理は4群ともに観察され、課題意識に関する共通性が確認できた。また、多雪地域・ボラ指定校等に指定して推進している（あり）群以外の3群において活動日の連絡調整や移動手段の課題が観察された。カテゴリー【苦労している】は4群ともに観察された。とりわけ、多雪地域・ボラ指定校等に指定して推進していない（無し）群において関係者や地域住民の理解不足に起因する意見が比較的多く見受けられた。制約されるや苦労していることの理由に注目すれば、除雪ボランティア活動の実施阻害要因がそこから垣間見られる。たとえば、小雪の影響で実施のタイミングが合わなかったり、タイムリーに企画・対応できなかったり、学校とうまく連携が図れなかったり、住民から批判的な意見が寄せられ萎縮してしまったりすること等の課題である。カテゴリー【推進していない+】とカテゴリー【推進していない-】は、いずれも多雪地域・ボラ指定校等に指定して推進していない（無し）群、小雪・ボラ指定校等に指定して推進していない（無し）群において観察された。カテゴリー【推進していない+】には、福祉教育はあるものの除雪ボランティアは推進していない、ニーズ待ち、他の事業でカバーできているので除雪ボランティアの活動の必要性を感じない旨の意見が集約されている。しかしそのコード数はいずれも少なかった。カテゴリー【推進していない-】は、課題があるので推進できない、小雪のため必要性を感じない、活動することは考えていないなど否定的な意見が集約されている。推進しない様々な課題や理由がここから見て取れる。これら種々の課題が除雪ボランティア活動を実践しにくくさせる要因として考えられ、その数の多さにも注目しなければならない。課題を抱えていて除雪ボランティア活動が実践しにくいところもあるのではないかとこの予想に対して答えを与えてくれたデータであるとも言える。

今回の調査分析により、学校生徒による除雪ボランティアの推進に対する各市町村社協の考え方の多様性が把握できた。豪雪地帯特別措置法で豪雪地帯指定されているといっても降雪量には地域差があり、除雪ボランティアの必要性を感じないところも含まれる。そうした場合でも、降雪量が多い地域に出かけ活動することや、ボランティア指定校や協力校として年間を通したボランティア（福祉教育）の一環として除雪ボランティア体験が必要な際に市町村社協として対応している例が見つかる。その一方で、学校生徒による除雪ボランティア活動があることは認識しつつも、除雪が必要な降雪量が無いため活動には至っていないという実情も明らかにできた。とりわけ、小雪の影響で必要性を感じていないという意見の多さもさることながら、除雪ボランティア活動経験を通した学校生徒の学びに関する肯定的に捉えている傾向が見られたことには可能性が感じられる。

なお、学校を含む関係者との連絡調整がうまく図れないことや住民からの除雪ボランティア活動に対する否定的な意見があると慎重姿勢になってしまいかねないこと等も自由記述回答を詳しく見たからこそ把握できた。学校側との連絡調整がうまく図れないことや住民からの否定的な意見に寄せられることについては受容しつつ、どの部分で摩擦や誤解等が生じているか見極め対話と説明を繰り返しながら、生徒たちが除雪ボランティア活動をしたいという思いを実現、そこで得られたことを社協広報や地元新聞社などのマスコミで情報提供、肯定的に評価する。合わせて住民リーダーの肯定的評価も加えて着実に活動していくことで、徐々に理解が得られるよう変わっていく可能性も秘めているはずである。その意味では、地域住民と一齐に活動する等工夫している実践例が見つかったので普及が望まれる。学校生徒による除雪ボランティアの推進に関する考え方の多様性を尊重しながらも、地域特性に合わせた臨機応変な対応と推進策があることについても更に情報共有していくことが望ましいと考える。

## 注及び引用

1) 国土交通省（2022.3）「令和3年度安全安心な克雪体制づくり取組事例集」、同省（2021.3）「令和2年度安全安心な克雪体制づくり取組事例集」、同省（2020.3）「令和元年度安全安心な克雪体制づくり取組事例集」（2022年9月1日取得 [https://www1.mlit.go.jp/kokudoseisaku/chisei/kokudoseisaku\\_chisei\\_kokudoseisaku\\_chisei\\_tk\\_000064.html](https://www1.mlit.go.jp/kokudoseisaku/chisei/kokudoseisaku_chisei_kokudoseisaku_chisei_tk_000064.html)）等がある。

2) 国土交通省（2014.3）「新たな地域除排雪の取組事例」において一般成人が担い手となって除雪ボランティアが行われる取

組と共に、学校生徒が参加する機会があると紹介されているものはいくつか確認できるが、学校生徒が活動主体として除雪ボランティアを行っているというものは確認できなかった。また、CiNii で学校生徒が活動主体となる除雪ボランティアに関する先行研究を検索しても拙稿、高橋和幸（2020）「特別支援学校生徒の除雪ボランティアによる活動効果：2校の取組の事例検討」『地域学』弘前学院大学地域総合文化研究所16,11-27 や高橋和幸（2019）「地域資源を有効活用し低予算で実現する中学校の除雪ボランティアの特徴分析」『弘前学院大学社会福祉学部紀要』19,11-28、高橋和幸（2015）「中学生が高齢者世帯の除雪ボランティアを経験することで得られる多面的効果」『地域学』弘前学院大学地域総合文化研究所11,13-26 がヒットする程度であり少ないことがわかった。

3) 高橋和幸（2020）「平成 30 年度・令和元年度冬期の除雪ボランティアの活動実態と、地域資源を有効活用して低予算で実現する事例研究調査報告書」科研費（基盤 C）17K04235 報告書、高橋和幸（2017）「平成 28 年度冬期における除雪ボランティアの活動実態と普及に向けた課題についての調査結果」科研（若手 B）26780317 報告書がある。

#### 参考文献

上村靖司・筒井一伸・沼野夏生・小西信義（2018）『雪かきで地域が育つ—防災からまちづくりへ—』コモンズ

高橋和幸（2020）「特別支援学校生徒の除雪ボランティアによる活動効果」弘前学院大学地域総合文化研究所『地域学』16 巻, 11-27